

表 2

指導形態の位置づけについて構想

▷ 教師側 ◁

1. レディネスを分析し、本時についての基礎能力の洗い出しを行う。
2. 課題設定にいたる演示実験資料提示の活動を重視する。
3. レディネスと指導目標内容から本時の指導形態の位置づけを考える。

▷ 児童側 ◁

1. 演示実験、資料提示をもとに疑問点、矛盾点を明確にする。
2. 自分の考えと友達の考えを比較して解決に役立つ新しい考えをつくり出す。
3. 与えられた指導形態の中でひとり学習や協力学習をすすめる。

基本的な考え方

基本的な授業のすすめ方

- 児童のレディネスを明らかにする。
1. 単元の目標と密接な関連を持つ既習事項の達成度はどうか
  2. 児童生徒が特に困難を示す事項は何か
  3. 児童生徒の経験・興味・関心はどこにあるか  
(県義務育課学習指導の手引き P37より)

- 今までの学習からわかっていること、わからないこと疑問点を明らかにする。
1. わかっていること、わからないことを自分でつかむ。
  2. 既習事項のつまづきの原因がわかる
  3. 既習の経験をもとに学習への手がかりをつかみ意欲をもつ
  4. 自分で学習していきたいことをまとめる

課題設定に直結させるための資料提示のしかた演示実験のしかたの決定

ひとり学習に結びつく反応の分析をし拡散的な思考をねらう手だてを構ずる

生活経験、学習経験から結びつくことをできるだけ多く発表する。疑問点、矛盾点をはっきりする。

5年「小数のわり算」  
本時のねらい  
○ 小数同士のわり算をし、その検算をすることによって小数でわる計算の余りの求め方がわかる。

6年「対称な形」  
本時のねらい  
○ 作図を通して、対応する頂点、辺、角などの条件から点対称な図形の性質がわかる。

(二) 検証  
五・六年算数の授業評価表の例

◀ レディネスの把握 ▶ ①…十分達成 ②…普通 ③…不十分

○観点 (学習指導の手引き P 37)	F 子	A 男	B 子	C 子	D 子	E 子
単元の目標と関連する既習事項の達成は	①	①	①	③	①	①
児童生徒が特に困難を示す事項は	②	①	①	②	①	②
児童生徒の経験、興味、関心はどこか	①	①	①	②	①	①

ひとり学習 → グループ学習

という、ステップを組み、前時までの集約段階である「ふかめとめる」を間接指導とした。

五年生は、たった一人の学年であるため間接指導に限らず「ひとり学習」という状態になる。そこで、個人の考えを拡散させるために、教師の方でそのことを十分に配慮し、F子のレディネスからみての、比較対象となる考えや、発展させるための考え、あるいは、収れんさせるための考えを用意しておく。そのため、前記した基本型をもとに、間接指導の際は「小わたり」することで、形成的評価を行いながら授業を進めることにも留意している。

レディネスの状態から、五年のF子については、達成状況、関心等に問題はないが、思考の過程を大事にする学習であるので、しっかりした「動機づけ」と「課題の把握」を直接指導で行い、「ひとり学習」に結びつけたい。

六年生の方は、C子が既習事項の達成度が不十分であるが、C子に対する手だてを用意すれば、間接指導でも、十分に成果をあげることができ、それをもとに集団思考をさせていけば、個の考えをより拡散できると考えた。そのため、C子への手だてをカセットテープで指示できるようにし